# 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和七年八月度　入賞句一覧

投句数　六百八十三句

## 一般の部

大西　誠一　選

### 特選

待ちどほし紐あたらしく登山靴　　東京都狛江市　椎野　一恵

もうずいぶん昔のこととなったが、三十歳の頃よく山に登った。小生の最も好きな山は北岳（三一九二m）である。日本で二番目に高い南アルプスの山で、となりには、奥穂高岳とならんで三番目に高い間（あい）の岳（三一九〇m）という山がある。北岳から間の岳への縦走は、懐かしい思い出となっている。

息災にあれと願ひつ夏祓　　不破郡垂井町　児玉　信子

この二～三年前から夏越の祓に大垣の八幡神社に行っている。茅の輪をくぐり、半年の間に自分の心身についた罪やけがれを祓い、無病息災を祈る。まず茅の輪を正面からくぐり、左に廻り、次にもう一度正面からくぐり、右に廻り正面に出て完了。そこから八幡神社にお参りをして終了となった。

半夏生サバの丸焼呼ぶ店主　　大垣市　米山　春江

もう二十年くらい前になるが、仕事の関係で月に二回ほど福井県に通ったことがあった。「半夏生」は、夏至から十一日目頃の時期を指す。この頃、福井では脂ののったサバを丸焼きにして食べる習慣があり、小生もこの頃よくサバの塩焼きを頂いた。懐かしく思い出される。

### 秀逸

白日傘カサブランカの香り立つ　　大垣市　櫻井　秋櫻

日傘さす紳士は粋に紺絣　　大垣市　香田　末代

星月夜記憶の父の武勇伝　　和歌山県日高郡　笹野　紀美

まあいいか狐とわける大西瓜　　養老郡養老町　浅井　幸子

欄干に火照り残して遠花火　　大垣市　岡田　あや子

ゆく雲は速し日光黄菅燦　　大垣市　小林　研

天に向け花燃え立つや百日紅　　千葉県習志野市　加藤　真理

ラムネ玉のぞく瞳は海の色　　本巣市　小泉　裕子

夏登山一朶の雲と峠越ゆ　　愛知県瀬戸市　宮崎　諭志

よき人と土用の昼の花御膳　　東京都武蔵野市　木嶋　純子

## 入選

年重ね感謝でくぐる茅の輪かな　不破郡垂井町　大羽　志風

関ケ原亡き武士癒す風鈴よ　養老郡養老町　浅井　幸子

神官のつづく沓音夏祓ひ　不破郡垂井町　竹嶋　富美子

浴衣着て二人で分けたりんごあめ　大垣市　佐藤　優帆

マニキュアは透明が好きソーダ水　東京都新宿区　花澤　ちいこ

ナイターのどよめく声の逆転打　大垣市　傍島　隆

冒険を語る幼の汗まみれ　大垣市　村瀬　佐智子

夫の嘘しらぬふりして法師蝉　大垣市　村井　娑婆

目を凝らす沙羅の白さや朝まだき　養老郡養老町　佐藤　咲楽

夏の夜天に広がる大輪に　不破郡垂井町　中嶋　結映

図書館のセミの声聞く指定席　大垣市　美濃仙人

風薫るけふの古文は恋のうた　東京都足立区　山﨑　菫久

初茄子を浅漬けにして一日終へ　養老郡養老町　大橋　与志

「里親募集」郵便局にカブトムシ　埼玉県さいたま市澤田　紫

浄土へは施餓鬼の棚や練供養　不破郡垂井町　傍島　法苑

## 選者吟

一語知り一語忘るる虫の声　誠　一

## 一般の部